

西防火協力会 だより

第15号

2022.10月31日発行

- ・第1回 西防火協力会消火救急研修会
- ・令和4年 秋季全国火災予防運動
- ・自主消防訓練を実施しましょう
- ・第50回 消防救助技術大会での快挙
- ・電気配線火災に要注意!
- ・令和5年 東大阪市消防出初式のお知らせ
- ・わが社の防火(明和グラフィア株式会社)
- ・編集後記

【発行】
西防火協力会
(東大阪市西消防署内)
TEL 06-6788-7198



第1回 西防火協力会 消火救急研修会実施

年度内事業計画に基づき、救急処置並びに消火器の使い方についての研修会を、今回は初めて言うことで、今後に続けていけるよう試験的に当会役員の皆さんにお声がけをし、12社16名の参加のもと、令和4年10月6日(木)に西消防署で開催いたしました。

席上、鈴木会長から日頃の感謝のお言葉が、参加者並びに消防職員に対してあったのち、「当会は、消防施策の縁の下の力持ちであります。しかしながら、

年度内事業計画に基づき、救急処置並びに消火器の使い方についての研修会を、今回は初めて言うことで、今後に続けていけるよう試験的に当会役員の皆さんにお声がけをし、12社16名の参加のもと、令和4年10月6日(木)に西消防署で開催いたしました。

席上、鈴木会長から日頃の感謝のお言葉が、参加者並びに消防職員に対してあったのち、「当会は、消防施策の縁の下の力持ちであります。しかしながら、

会員の皆様には、このことをご理解の上ご協

力をいただいていることに対して、何らお返しできないことに心を砕いていたところ、私から日頃目にしていても、使い方の知らないAED等を、実際に手を取っていただく研修会は、どうでしょうというご提案をさせていただきました。今回は役員の皆様に先行してお声がけをさせていただきました。今後は、出来ることなら広く会員の皆様にもお声がけできればと思います」とご挨拶がありました。

その後班分けをして、AED(全自動体外式除細動器)の使い方を中心とした救急救命処置と、水消火器を用いての消火器の基本的な使用方法を研修していただきました。

研修後受講者から「定期的な手にしてないと忘れてしまいそうで、また参加したいです」「実際の消火器では、火からのどのくらい離れて噴射するのか、何秒ぐらい噴射するのか、どの程度の火の手なら消せるのか。まだまだ解らないことだらけ。この点をどのように伝えていくべきかまた検討していただきました



い」など消防への要望もありません。

特に今回、自社で研修をされた協同組合大阪紙文具流通センター1の名和専務理事様からは、「本日実施した防災訓練を通じて、先ずAEDの取扱いに続いて、消火器の取扱いを消防局から教えていただき、有事の際に我々ができることの理解を深められ大変勉強になりました。また防災講演会では本市域において起こりうる災害をハザードマップ等を通じ、知ることができて良かったです。このような訓練を定期的に実施することにより災害が発生した場合に各々が対応できるような、今後も努めてまいります」とのお言葉をいただきました。

消防からは、「皆さんの真剣に取り組まれているお顔を拝見して、また、皆様からのご意見を真摯に受け止め、指導方法、技術を改良し、向上していかな

自主消防訓練を実施しましょう

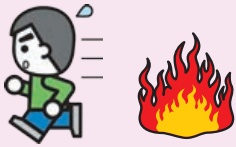
不特定多数の人が出入りする等の特定防火対象物は、年2回の消防訓練が消防法で義務付けられています。普段から訓練することで、災害時にやるべきことができ、被害を最小限に抑えることができます！

◎ 消火訓練



消火器の使用方法を知っていますか。操作は非常に簡単ですが、知っていなければ消火することはできません。
※西消防署では、無料で水消火器の貸し出しを行っています。

◎ 避難訓練



避難経路の確認や、避難指導の訓練。避難経路の整理整頓をお願いします。

◎ 通報訓練



火災が発生したときに、落ち着いて住所などが言えるよう日頃から通報訓練を行いましょう。

○訓練・防災などに関するご質問などお問い合わせください

問合せ / 西消防署

TEL.06-6788-0119 (予防担当)



ければならないと痛感しました。次回実施時には、また工夫して皆様に満足していただける研修会となるよう努めていきます」と言葉がありました。(写真)

今回は、全会員の皆様にお声がけをしていきたいと思いますので、その節は振るってのご参加を期待しています。

なお消防から、救命講習は団体企業単位で会場設営が可能な事業所様から、ご相談していただければ消防職員が赴き指導に当たらせていただきます。

また、令和4年12月11日(日)と令和5年3月19日(日)の13

時から16時の間に一般公募の形で、普通救命講習を実施しますので、西消防署に直接お申し込みください。

通報・消火・避難等の消防訓練の指導立合いをご希望の場合は、少人数であつても、遠慮せずに消防署に直接ご相談くださいますことでした。

◎消防署の連絡先は
東大阪市西消防署
警備担当
TEL(06)6788-0119
FAX(06)6788-1374

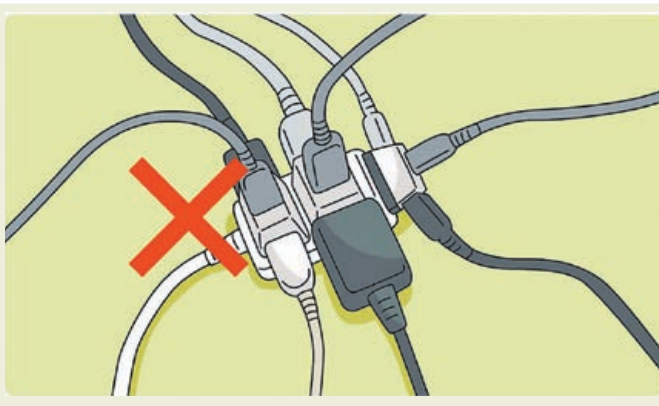
電気配線火災に 要注意!!



東大阪市では、電気配線からの出火が増えています。少しでも火災のリスクを減らすためにも電気配線の**3ナイ運動**を行いましょう。

1. つなぎすぎナイ

ひとつのコンセントに多くの電気機器をつなぐと発熱し、火災になることがあります。また、延長コードやタップの差し過ぎにも要注意です。



定格容量は守りましょう

2. ほこりをためナイ

差したままのコンセントに、ほこりがたまっていませんか？
こまめにお掃除をしましょう。水拭きは厳禁です。



トラッキングに要注意

携帯電話の充電器など、使っていないのに差したままにしていませんか？
使っていない充電器は抜きましょう。



断線にも要注意

充電器などの細いケーブルは、使っているうちに見えないところで線が切れるかもしれません。安い海外製ではなく正規品やPSEマークがついているものなど信頼できる製品を使用しましょう。

第13回

わが社の防火

明和グラビア株式会社

日頃より地域の皆様方には格別のご高配を賜り、感謝申し上げます。

さて、今回は「西防火協力会だより」の「わが社の防火」をお借りし、僭越ではございますが、当社の防火に関する取組を紹介させていただきます。



本社と工場ビル

当社紹介

一九六〇年十一月に現在の東大阪市柏田東町の地に大阪

工場が完成後、同時に本社を名古屋から移転しました。社是に「他人のやらない商品づくり」を掲げており、医療関係や建築資材など様々な商品を生み出しています。

一九九三年からビニール（塩化ビニル樹脂）への水性印刷が本格稼働し、環境にも優しい取組を続け、地域の一員として歩んでまいりました。

当社の取組

当工場は、生産設備のほとんどを自社で作成しているため、製造部門と生産技術部門が設備設計に深く関わっています。「安全面を強化してほしい」といった要望があれば、すぐに対応できる仕組みがあり、事故に繋がるようなヒヤリハットがあれば、次の日には改善されているといった事も日常となっています。しかしながら、塩化ビニルをカットする際に切断する時には、どうして人が介在しなければいけない場合があり、切創事故が年に一回は発生しています。人為的な事故をいかに防

ぐか、カッターそのものの使用をどうするか、研修をどうするか、などが今後の課題となっています。

現状で実際に事故が発生した場合、職場又は工場全体の問題として、調査をおこなう、発生の第一報は、その日の内に全国の事業所に周知しています。また事故発生の後1カ月間は、意識面での気づきを促すため、職場単位で黄色の腕章を装着しています。



帽子と腕章

若手社員には、安全についての座学研修を入社時の研修カリキュラムに取込み、ベテラン社員が講師となっております。

その後の一年間は帽子の色を変えて、周囲の目で見守る体制をとっています。当社の安全文化には、役職に関係なく声掛けをしていく文化があり、以前は冬場に、ポケットに手を入れていた社員がいましたが、今はなくなりまし

た。毎年六月には、全国一斉に緊急連絡網の整備をおこなっ

ています。職場によってはLINEで繋がっているなど、自然災害などで交通がマヒした場合では、有効に活用できたいと思います。

当社の基本行動に「気づきと挨拶」、「認識即行動」という言葉がありますが、「まわりのために、まわりといっしょに」という意味合いを含んでいます。日頃のコミュニケーションも防災にとても大切なことですので、今後も継続していきたいと思

います。また、近年はコロナ禍により出場ができていませんが、自衛消防隊訓練審査会では、当日までの二か月間を訓練に充てており、出場する若手社員の良い刺激となっています。西消防署の方には、この場をお借りして、日頃の活動に対する感謝を申し上げます。



自衛消防隊消火器操法出場



11月9日(水)~15日(火)

全国火災予防運動実施します

令和4年 秋季

お出かけは マスク戸締り 火の用心

新型コロナウイルス蔓延のため、消防イベントや大規模消防訓練は実施できませんが、各事業所さまにおかれましては、この機会に自主消防訓練を実施していただきますようお願いいたします。



ブリッジ救助



梯子とぼん



溺者搬送

本市救助隊が 歴史的快挙

この夏、2年ぶりに消防救助技術大会が7月23日に兵庫県で開催されました。
その大会で東大阪市消防局にとって、歴史的な快挙が起きました。
水上の部では、2名が一組となつて、20メートル先の要救助者を救出する溺者搬送という団体種目と、基本泳法という個人種目で優勝しました。
また、陸上の部では15メートルの垂直ぼしごを命綱作成して駆け上る

はしご登攀という個人種目、さらに、4名一組で20メートル先の川の中州に取り残された要救助者の救出を想定したブリッジ救出の4種目で優勝し、8月26日に東京で開催された全国大会に出場し入賞しました。
特筆すべき事は、最も減点項目が多い団体種目で初めて並み居る強豪チームを抑えて悲願の優勝したことです。しかも水・陸上の両方で4種目の優勝は、まさに快挙となりました。



▲水上の部：左から 高橋、金子、竹田



第50回 全国消防救助技術大会

▲陸上の部：
左から小林、堀、
深田、岡本、前田



近畿大会優勝
◀ブリッジ救助メンバー

令和5年 東大阪市消防出初式



とき **1月8日** 午前**10時**～
(小雨決行)

ところ **花園中央公園** (多目的芝生広場)

編集後記

今回もコロナ禍に翻弄された出筆となりました。行政の活動制限と一般の皆様のおかれている行動自粛への認識に、どことなく違いが感じられるのですが…。とは申しましたも、今年もあと2ヶ月となりました。
私事ですが、14号発刊から15号までの間の半年間に、67歳にして2つの初体験をしました。
一つは、富士山登山です。もう一つは、鯖街道を踏破しました。二つともへろへろ状態でしたが、何とかクリアすることができました。あとは、この調子で好奇心と体力維持に努めていきたいと願うばかりです。
皆様からのエピソードやわが社の防火への投稿お待ちしております。